

## 令和6年度版『小学社会』

# 単元の構成と評価

元岡山市立小学校校長

矢延 文夫



## 「内容のまとめごと」の評価について

学習指導要領の平成29年改訂を踏まえた学習評価の改善について、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」では、「単元や題材など内容や時間のまとめを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくこと」が必要であると記されています。

日本文教出版発行の『小学社会』は、この趣旨を踏まえ、一つ一つの内容のまとめである「単元」の構造と学習過程を明らかにすることで、「内容のまとめごと」の評価に役立てていただけるよう編集してまいりました。

本資料は、『小学社会』の中から5年小単元「森林とわたしたちの暮らし」を例にとり、「指導と評価の一体化」

のもとで、どのように指導していけばよいか見開きで紹介いたします。また、最終ページには、評価に関する現場の悩みをいくつか紹介し、Q&Aという形で対応策を考えてみたいと思います。

＊5年小単元「森林とわたしたちの暮らし」は、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の示す「内容のまとめ」では「(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」に含まれています。『小学社会』では、これを大単元「国土の環境を守る」に位置付け、三つの小単元（「自然災害から人々を守る」「森林とわたしたちの暮らし」「環境とわたしたちの暮らし」）で構成しています。

### 【本資料の構成】

#### ■ 単元の構成／2～3

単元「森林とわたしたちの暮らし」が、どのように構成されているかを示します。

#### ■ 1 単位時間の授業の流れ／3

1 時間の授業の流れがどのように構成されているかイメージしやすいように、教師と子どもの「吹き出し」で授業の流れを示します。

#### ■ Q&A／4

評価をどのように進めていけばよいかを示します。

本資料は内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

日文の新版教科書情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



未来をになう子どもたちへ  
日本文教出版

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

# 単元の構成

内容のまとめり

『小学社会』は、教科書で3次（つぎ）構造による問題解決学習としての単元の組み立てを採用しています。  
 第1次…問題を発見する力を身につける  
 第2次…問題を追究・解決する力を身につける  
 第3次…問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につける  
 この構造は、学習の段階や過程を導くだけのものではなく、社会科で求められる資質・能力の育成をめざすところに、その主たるねらいがあります。

## 5年 小単元『森林とわたしたちの暮らし』



# 1 単位時間の授業の流れ (第3時の例)

問いをもつ

調べ、話し合う

まとめをする

**前時とのつながり**  
 前時からの問い 手入れをしないと、わたしたちの暮らしにはどんな影響が出るのかな。

**問いをもつための資料準備**

**教師**  
 林業で働く人は減ってきていたね。写真を見て、手入れされなくなった森林の影響を考えてみよう。

**子ども**  
 間伐しない人工林は、暗くて木が弱々しいね。日光が当たらないから、下草もないね。

**教師**  
 手入れされなくなった森林は荒れていき、問題が起きそうだね。今日はこのことについて学習しよう。

**問い**  
 手入れをしない人工林が増えると、どのようなことがおこるのだろう。

**追究のための資料準備**

**教師**  
 手入れをしないと、どのようなことが起きるのか、資料を見て調べよう。

**子ども**  
 下草が生えないと、土がむき出しになり、山くずれが起きやすくなるよ。水をたくわえるはたらきも弱まるよ。

**教師**  
 山や森林はどうなるのかな。

**子ども**  
 山が荒れると野生動物の住みかなくなり、人里で作られている農作物に被害が出たんだ。

**深い学びのための資料準備**

**教師**  
 山や森林がこんなに変わると、どんなことが起きるのかな。

**子ども**  
 水をたくわえるはたらきが山になくなり、大雨が降ると、洪水や土砂くずれなどの災害が起きやすくなったんだ。

**教師**  
 学んできたことをもとに、今日のまとめをしよう。

**子ども**  
 手入れをしない人工林が増えると、森林のはたらきが弱くなり、人だけでなく動植物にとっても困ることが増え、暮らしへの影響が大きいことがわかった。

**振り返る場の設定**

**子ども**  
 資料を調べたり、○○さんの意見を聞いたりすると、森林の役わりは、木を育てることだけではないことがわかった。次の時間は、ほかにどんな役わりがあるのか調べたいな。

評価【知・技】(発言・ノート)

評価【知・技】(発言・ノート)

身につけたい力	問題を発見する力		問題を追究・解決する力			問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
毎時の問い	問題解決のプロセスの始まりは、社会的事象と子どもとのつながりが意識できるような導入を心がけました。	林業で働く人々は、どのような仕事をしているのだろう。	手入れをしない人工林が増えると、どのようなことがおこるのだろう。	森林がはたす役わりには、どのようなものがあるのだろう。	国産木材の利用量を増やすために、どのような取り組みがおこなわれているのだろう。	森林を守るために、わたしたちができることはどのようなことだろう。
学習内容	森林資源の分布	育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力	国土の保全	森林資源の働き、森林資源が果たす役割	育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力	国土の環境保全について、自分たちにできることなど
子どもの主な反応	◆国土の約3分の2が森林である。 ◆森林面積はほとんど変わっていないが、人工林が増えてきている。 ◆戦後たくさんの木材が必要となり、多くの木が切られ杉や檜が植えられた。	◆木を育てるには長い年月と多くの作業が必要だ。 ◆林業で働く人は、いろいろな工夫や努力をしている。 ◆2000年以降は輸入量が減り、国内生産量が増えているが、全体的には木材の利用が減っている。 ◆林業で働く人が減り、高齢化も進んでいる。	◆動物の住みかとなる山が減って、動物による農作物の被害がおきている。 ◆手入れをしないと下草が生えなくなり、洪水や土砂くずれなどが起きやすくなる。	◆森林には、人々や動植物の暮らしに欠かせない働きがある。 ◆森林を守り、保護する取り組みがある。	◆国産木材の利用を進めるために「木づかい運動」「木質バイオマス」など、いろいろな取り組みが行われている。 ◆森林を守り、保護する取り組みがある。	◆友達と話し合うと、自分の考えになかったことにも気付く。 ◆自分ができていることにチャレンジしよう。
次時につながる問い	森林は、わたしたちの暮らしとどのような関わりがあるのだろう。	手入れをしないと、わたしたちの暮らしにはどんな影響が出るのかな。	森林にはほかにも役わりがあるのかな。	木材の利用を増やす取り組みがあるのかな。	森林は暮らしと関係が深いことがわかった。何かできることはないかな。	
【評価の観点】	【主体的に学習に取り組む態度】	【知識・技能】	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【知識・技能】	【主体的に学習に取り組む態度】
指導と評価の一体化のポイント	「指導と評価の一体化」のために、単元の評価規準に照らし合わせながら各時間の学習状況を見取るようにします。その際、評価したことを指導に生かす場面と記録に残す場面を計画的に行う必要があります。本単元では、★の時間に評価したことを記録に残す場面として位置付けます。なお、指導に生かす評価は毎時間行うようにします。					

私たちの暮らしと森林との深いつながり

身の回りの木造建築物や木製品の多さ

学習問題

森林は、わたしたちの暮らしとどのような関わりがあるのだろう。

さらに考えたい問題  
 森林を守るために、わたしたちができることはどのようなことだろう。

★

★

★

# Q & Aの形で

「内容のまとめりごと」の評価をどのように進めていけばよいかを示します。

**Q1** 単元づくりをするうえで、  
どのようなことに気をつけたらよいでしょうか？

**A** 子どもがもつ「問い」を大切に、単元の構想を子どもの「問い」と意識の流れが連続するように組むことが必要となります。こういった「子どもが学びの主演となる単元づくり」が具体的にイメージできればできるほど、評価場面と評価する子どもの姿、評価の方法などを考えやすくなります。

**Q2** 評価したことを記録に残すのは、  
どのような場面で行えばよいでしょうか？

**A** 単元目標の実現状況が子どもの反応から顕著に見られる場面で、評価し記録に残すとよいでしょう。問題解決のプロセスを大切に社会科では、その節目に評価したことを記録に残す場面をおくことが多いです。そのため、単元目標に沿って指導した結果が表れる場面、つまり単元の後半部分では、子どもの実態を評価し記録として残しておきたいところです。（前ページの単元では★印の場面です。）ただ、記録に残す回数は決まったものではなく、学習指導要領の「内容のまとめり」や内容の取扱い、各単元の評価規準などに合わせて、無理のない範囲で適切に行うことが求められます。

**Q3** 子どもの学習状況を見取るうえで、  
どのようなことに気をつけたらよいでしょうか？

**A** 単元の評価規準をもとにして各時間の評価規準をつくる際、「～している」という子どもの姿を具体的に想定しておく必要があります。この姿をいわゆる「おおむね満足できる状況（B）」とすれば、毎時間の子どもの見取りを効率的に行うことができます。

【参考文献】『授業力アップを目指す先生のための社会科のABC 評価編』（安野功著）2022年12月16日 日本文教出版株式会社発行／『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会』（国立教育政策研究所）令和2年7月 株式会社東洋館出版発行

**Q4** 支援を要する子どもへの手立ては、  
どのようなことに気をつけたらよいでしょうか？

**A** 支援を要する姿はどうして起きたのか考えてみましょう。目の前の子どもの姿は想定通りになるとは限りません。つまりきはなぜ起きたのか把握するためにも、授業中であれば机間指導での声掛け、調べ活動の進捗状況の把握などを行い、授業後であれば集めたノートやワークシートなどの表現内容から「問い」に対してどのように理解しているか、またどのような見方・考え方を働かせているかなどを見取る必要があります。そして、見取ったことをもとに、質問したり、整理を促したり、他の子どもの考えを紹介したりするなど、直接的に指導していくことで、追究活動の土俵に戻すとよいでしょう。

**Q5** 個に応じた指導を行ううえで、  
どのようなことに気をつけたらよいでしょうか？

**A** 個に応じた指導に当たっては、これまでの評価に基づく指導とともに、学習者の視点に立ち「どの学び方が自分に合っているのか」子どもが自分に問いかけ、最適な学びとなるように調整する「個別最適な学び」の充実を図る指導も新たに求められています。そのためには、ICTの活用とともに振り返りの場の設定が効果的です。ICTの活用では、文書の編集・プレゼンテーション・情報検索・共有などの機能を使えば、調べ活動や話し合い活動が充実してきます。振り返りの場では、自分の考えがどう変わったのか、それはなぜかを振り返ることができるようなカードの準備や、振り返る視点の提示（学びとのつながり、友達とのつながり、生活とのつながり）などで、学びを調整することができるようになります。（前ページの1単位時間の授業の流れでは、「振り返る場の設定」の部分です。）

著者

矢延 文夫



元岡山市立小学校校長、元岡山県小学校教育研究会会長。国立教育政策研究所の『環境教育指導資料』作成協力者（平成19発行）や「特定の課題に関する調査（小学校社会）」のための協力者（平成18～19）を歴任。『新版小学校社会科全単元・全時間の授業のすべて（5年）』（安野功編著 東洋館出版社）、『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業のデザイン』（小原友行編著 明治図書）など多数の書籍で分担執筆。現在は、岡山市立小学校教諭（再任用）として初任者を指導中。日本文教出版『小学校社会』教科書著者。

令和6年(2024年)度版 小学校社会科 内容解説資料(別冊)

116 日文	教科書 記号・番号
3年 社会 308	
4年 社会 408	
5年 社会 508	
6年 社会 608	

●本書の無断転載・複製を禁じます。  
CD33654

日本文教出版 株式会社  
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171  
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938  
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261  
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690